メッセージ　3

その信仰を守る

聖書：Ⅱテモテ 4:7 後．Ⅰテモテ 1:19．3:9．4:1．6:12．Ⅰテサロニケ 3:2．ユダ 3 節

Ⅰ．新約において、信仰は客観的であり、また主観的です：

A．客観的な信仰は、わたしたちの信じる対象、すなわち、わたしたちが信じているものを指しています。この客観的な信仰は、神の新約エコノミーの内容を含みます――エペソ 4:13．Ⅱテモテ 4:7 後：

1．エペソ第 4 章 13 節における「その信仰」は、信じる行為としての信仰ではなく、客観的な信仰です。

2．客観的な信仰の項目は、わたしたちの救いに関する項目だけです。言い換えれば、キリストのパースンと働きに関する項目だけです――ヨハネ 3:16．1:18．Ⅰヨハネ 4:9。

B．主観的な信仰は、わたしたちの信じる行為と関係があります――ヨハネ 3:15-16：

1．この意味によれば、主にある信仰を持つことは主を信じることです。

2．キリストにあるすべての真の信者は、キリストに関する信仰を持つことにおいて一です。

C．Ⅰテサロニケ第 3 章 2 節で信仰は、聖徒たちが信じること（主観的な信仰）を指すだけでなく（5、6、10 節にあるように）、わたしたちが信じているもの（客観的な信仰）も指しています（Ⅰテモテ第 3 章 9 節、第 4 章 1 節、Ⅱテモテ第 4 章 7 節にあるように）：

1．信仰のこれら二つの面は、互いに関係があります。

2．わたしたちが信じること（主観的な信仰）は、わたしたちが信じているもの（客観的な信仰）から出ており、わたしたちが信じているもの（客観的な信仰）の中にあります。

Ⅱ．「わたしは……その信仰を守り通しました」――Ⅱテモテ 4:7 後：

A．ここの「その信仰」は客観的です。

B．この節の「信仰」という言葉は、わたしたちがキリストを信じて、彼のパースンと贖いの働きをわたしたちの信仰の対象とすることを暗示しています――Ⅰテモテ 1:19．ガラテヤ 1:23。

C．その信仰を守るとは、神の新約エコノミー全体を守ることです。その信仰は、神の具体化、また神の奥義としてのキリストと、キリストのからだ、またキリストの奥義としての召会とに関するものです――Ⅰテモテ 1:4。

Ⅲ．Ⅰテモテ第 6 章 12 節前半は言います、「その信仰の良い戦いを戦いなさい」：

A．その信仰のために戦うことは、神の新約エコノミーのために戦うことを意味します。

B．その信仰の良い戦いを戦うことは、神の新約エコノミーにしたがった完全な福音の内容のために戦うことです――エペソ 1:9-10．Ⅰテモテ 1:4。

C．異なる教えのゆえに、召会はすでに堕落しており、その信仰からそれていました――Ⅰテモテ 1:3。

D．パウロはテモテに、その信仰からそれていくことに対して戦うように、すなわち、その信仰の良い戦いを戦うように命じました――6:12 前半。

Ⅳ．Ⅰテモテ第 6 章 12 節後半で、パウロは続けて言っています、「永遠の命を保持しなさい．あなたはすでに永遠の命へと召され……たのです」：

A．わたしたちは、クリスチャン生活においてその信仰の良い戦いを戦うために、この命（永遠の命、神聖な命）を保持する必要があり、人の命に信頼してはなりません――Ⅰテモテ 6:12 後半。

B．わたしたちは永遠の命を保持することによって、客観的にだけでなく、また主観的にその信仰の良い戦いを戦います――12 節後半。

C．わたしたちは永遠の命を保持する必要があります。そうすれば、わたしたちはその信仰の良い戦いを戦うことができます――12 節。

Ⅴ．正常なクリスチャン生活は、その信仰を守って、神のエコノミーにおける神聖な豊富にあずかることです——Ⅰテモテ 1:19．3:9．4:1．6:12．テトス 1:4．ユダ 3 節：

Ａ．神のエコノミーは信仰の中にある事柄、すなわち、信仰の範囲と要素の中で開始し発展する事柄です——Ⅰテモテ 1:4。

Ｂ．神のエコノミーは、ご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することであり、天然の領域や律法の働きの中の事柄ではなく、キリストにある信仰による再生を通しての、新創造の霊的な領域の中の事柄です——Ⅱコリント 5:17．ガラテヤ 3:23-26。

Ｃ．信仰によって、わたしたちは神から生まれて神の子たちとなり、神の命と性質にあずかって神を表現します——ヨハネ 1:12-13：

１．信仰によって、わたしたちはキリストの中へと入れられてからだの肢体となり、彼であるすべてにあずかって彼の表現となります——ローマ 12:4-5。

２．これは、神の新約エコノミーにしたがって信仰の中で遂行される神のご計画です。

Ⅵ．わたしたちは純粋な良心をもって、その信仰の奥義を保っている必要があります——Ⅰテモテ 3:9：

Ａ．その信仰は、わたしたちが信じているもの、すなわち福音を構成するものを指しています——ローマ 1:1，3-4。

Ｂ．その信仰の奥義はおもに、神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会です——コロサイ 2:2．エペソ 3:4。

Ｃ．その信仰の奥義を保っているために、わたしたちは純粋な良心、すなわち、いかなる混合からもきよめられた良心を持たなければなりません——Ⅰテモテ 3:9．1:19。

Ⅶ．ユダは彼の手紙で言います、「わたしは……聖徒たちに一度限り伝えられたその信仰のために力を尽くして戦うようにと、手紙を書いて勧める必要を感じました」——ユダ 3 節後半：

Ａ．この節の「その信仰」は、主観的なものではなく、客観的なものです。

Ｂ．ここの「信仰」という言葉は、わたしたちが信じることを指しているのではなく、わたしたちの信仰、すなわち、わたしたちが信じているものを指しています。

Ｃ．ユダ 3 節のその信仰は、わたしたちの信仰としての新約の内容を示しており、わたしたちは信じて、わたしたちの共通の救いを得ます——使徒 6:7．Ⅰテモテ 1:19．3:9．4:1．5:8．6:10，21．Ⅱテモテ 3:8．4:7．テトス 1:13。

Ｄ．この信仰は、いかなる教理でもなく、聖徒たちに一度限り伝えられました。

Ｅ．この信仰のために、わたしたちは戦うべきです——Ⅰテモテ 6:12。

Ⅷ．わたしたちはみな、「その信仰の一に……到達」する必要があります——エペソ 4:13 前半：

Ａ．この句で述べられているその信仰は、客観的な信仰です。

Ｂ．その信仰の一は、わたしたちが神の御子を知る全き知識にかかっています——13 節。

Ｃ．わたしたちはキリストを中心とし、彼に集中するときはじめて、その信仰の一に到達することができます。

© 2024 Living Stream Ministry